

令和 8 年度 第 1 回 東備支援学校コミュニティ・スクール運営委員会 議事録（全体会）

日時

- 令和 8 年 7 月 16 日(木) 9:30 ～ 11:40
- 場所：東備支援学校 会議室

参加者

- 運営委員：厚見剛、石原伊知郎、岩上太郎、今井歩、玉谷一生、塚本哲、内藤和隆、長瀬麻美
西田典子山本雅子、藤林小百合、藤原宏、溝手はるか
- 本校職員：清水珠希、中塚廣佳、西川省吾、富谷俊輔、中田裕人、豊田真澄、中山愛里、井上亜矢
西崎祐子、平田悠、角原佳介、綱島光希、小林洋貴

議論の詳細

1. 開会および挨拶

- 進行（西川副校長）：急な日程変更および延期へのお詫び、ならびに本日参集いただいたことへの深い感謝を伝え、有意義な会となるよう進行を開始。
- 清水校長挨拶：急遽の日程変更に至った経緯について説明。

2. 組織体制および役員の承認と PTA について

① 運営委員会の新体制と人事

学校長を除く 13 名の委員が県からの委嘱を受けて新体制を構築。本校のコミュニティ・スクール運営委員会は「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」を一体的に進めている。今年度の新任として、岩上氏、山本氏を紹介。役員選出では、満場一致により会長に藤林氏、副会長に清水校長を承認。

② PTA の任意団体化

令和 6 年度からの丁寧な移行準備期間を経て、令和 8 年度総会をもって完全な「任意加入制」への移行を完了。現在も加入率は 90%以上を維持しており、保護者・教職員の理解を得ながら円滑に新体制での運用を開始している。

3. 令和 8 年度 学校運営方針および重点取組

清水校長より「第4次岡山県特別支援教育推進プラン（令和 5～9年度）」に基づく学校運営方針と、重点取組を説明。

【文部科学省委託事業】インクルーシブな学校運営モデル事業（令和7～8年度）：全国 13 団体の 1 つに指定。備前市立西鶴山小学校、岡山県立備前緑陽高校と本校の3校で、交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方や指導体制等について実践研究を行っている。

4. 各班からの活動報告・熟議内容

① ジョブ班

活動テーマ：「地域に必要とされるものを作る」「地域に必要とされていることをする」

・具体的な成功体験と自己肯定感の向上に繋げるための案として、いちけんファーム様を協力企業として、生徒による「おにぎりの具」の考案・提案などがあげられた。

② 安心街づくり班

活動テーマ：指定避難所としての実効性の向上

- ・当事者に寄り添った避難体制を目的とし、令和 8 年 1 月頃（阪神・淡路大震災の時期）に「第 1 回 合同防災集会」を企画してはどうか。
- ・「防災マップ」を活用したミニ講習、備蓄品の設営・試食体験を実施。
- ・特別支援学校が核となり、障害がある人に配慮された避難所づくりを進める。

③ 子ども班

活動テーマ：教える経験を通じた「自己効力感」の向上

- ・地域探検、職業体験、近隣小中学校との交流等を軸に、グラウンド・ゴルフ交流や神社清掃、藍染め等へ柔軟に対応。
- ・昨年度は高等部生徒が地域住民に「椎茸の金駒打ち」を教える出前講座を開講し、自己効力感の育成に寄与した。

④ 福祉班

活動テーマ：「地域生活を考える」をテーマにした対話

- ・卒業後の地域生活移行を見据え、西日本豪雨等の教訓、成年後見制度の進展、相談支援事業所のあり方など、保護者の関心が特に高いリアルなテーマを設定。
- ・今後の保護者向け勉強会や研修会のコンテンツ内容をさらに深めていく予定。

5. 全体熟議(質疑応答・意見交換)

昨年10月に本校が備前市の避難所指定を受けたことから、今後、地域や行政と協働し、「いつ」「どのような」防災活動を「誰が主体となって」展開するかについて、全体熟議を行った。安心街づくり班が主体となり計画する学校周辺地域との防災活動の立案と実施、通学区域にある関係各課と協力して、保護者のニーズを反映した個別避難計画の策定の取組、児童生徒が在校時に大規模な災害が発生した場合の避難所運営等を協議する会「広域連携検討会(仮称)」の設置の必要性などについて熟議した。

6. 閉会の挨拶(藤林会長より)

・ 保護者や支援者へのメッセージとして、「将来を諦めない」ということについて、具体例を挙げながら、本会が子どもたちの将来の希望に繋がることへの願いを込め、会を締めくくった。

7. 集合写真撮影後、解散